

くらし・人・環境を見つめて

i land fill

— フェニックス広報誌 —

CONTENTS

INFORMATION

大阪湾フェニックスセンターに求められる方向性(懇談会提言)
韓国環境大臣が神戸沖埋立処分場を視察!
平成21年度の供用開始に向けて ~大阪沖埋立処分場~
「大阪湾圏域における廃棄物・水環境保全に係る調査研究助成事業」成果発表会を開催
泉大津フェニックスで野外コンサートを開催!
今年度のイベント開催一覧
平成19年度決算概要

リレーエッセイ 東近江市あいとうエコプラザ菜の花館館長 野村正次



INFORMATION

大阪湾フェニックスセンターに求められる方向性

～懇談会提言～

平成19年度に学識経験者からなる「新たな海面埋立処分場計画の方向性に関する懇談会」を設置し、中長期的な視点から提言をいただきました。今回は、懇談会で議論してきた結果をまとめましたのでお知らせいたします。

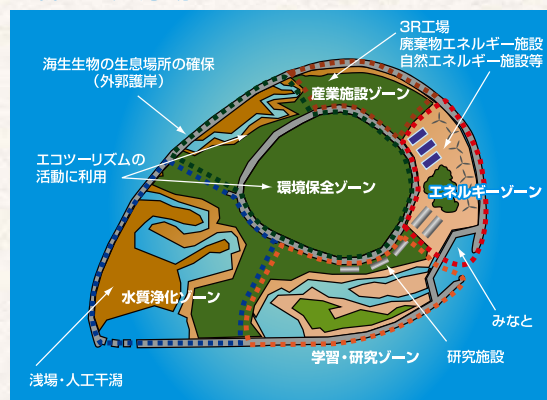
現在、地球温暖化の危機、資源の浪費による危機、生態系の危機など、地球規模で環境問題が深刻化しており、環境への負荷の軽減、資源の循環的利用、生態系の維持・回復、自然と人の共生など持続可能な社会に向けた取組みが世界の潮流となっています。

懇談会では今後のフェニックス事業に求められる方向性の戦略を取りまとめました。センターでは、この懇談会の提言の実現に向けて、みなさんと一緒に考えていきます。

懇談会委員

専門分野	氏名	所属
港湾計画	黒田勝彦	神戸市立工業高等専門学校 校長
環境	上嶋英機	広島工業大学大学院 教授
廃棄物	武田信生	立命館大学総合理工学研究機構 客員教授
水産	中原紘之	京都大学 名誉教授

新たな処分場のイメージ



今後のフェニックス事業に求められる方向性

- ① 地球温暖化、生物多様性の保全等の地球環境問題への対応
- ② 廃棄物処理を通じた地域社会の環境保全・地域経済への貢献
- ③ 新たな事業展開に対応できる持続的活動のための自立・自律した仕組みづくり
- ④ 市民・企業・研究機関等との協働

6つの戦略

- ① 処分容量の安定確保
- ② 海域環境の再生・創造
- ③ 海とのふれあい、環境教育の場の提供
- ④ 資源の再生・経済価値の創出、基幹産業等の支援
- ⑤ 環境技術の研究・開発・整備
- ⑥ 積極的な情報の発信

「大阪湾フェニックス計画フォーラム」開催のお知らせ

懇談会の提言を受けて、地球温暖化などの地球環境問題に関心をもってもらうとともに、廃棄物の最終処分に対する認識を高めてもらうことを目的として「大阪湾フェニックス計画フォーラム」を開催しますので、ぜひご参加ください。

■日 時：平成20年10月26日(日)午後1時30分から

■場 所：海遊館ホール(大阪市港区海岸通1)

■募集人数：250名 詳しくはセンターHPをご覧ください。

大阪湾フェニックスセンター

検索

韓国環境大臣が神戸沖埋立処分場を視察！

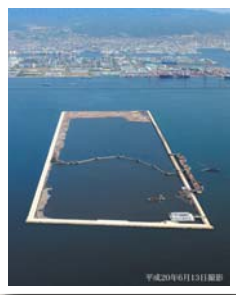
5月23日(金)、神戸市で開催されたG8・環境サミットに参加するため来日した韓国環境省の李萬儀大臣をはじめ同省地球環境課、地球環境事務所、国立環境研究所から8名の方々が当センター―神戸沖埋立処分場の視察に来られました。当センターへの外国政府閣僚の視察は初めてのできごとです。

フェニックス事業の概要、神戸沖処分場について説明を行ったあと、船で処分場にわたり、埋立て現場を見学していただきました。

李大臣は、海面埋立による広域的な廃棄物処理について非常に関心をもたれ、質問や意見交換を含め、予定を1時間近くもオーバーするほど熱のこもった視察となりました。

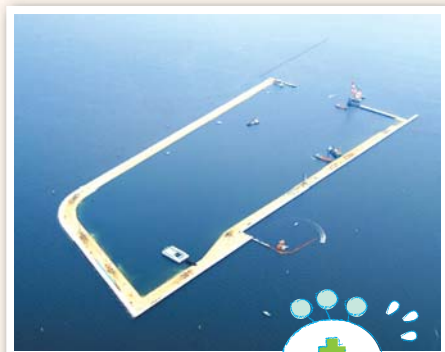


護岸上から視察する李萬儀環境大臣(写真中央)



神戸沖埋立処分場

平成21年度の供用開始に向けて ～大阪沖埋立処分場～



大阪沖埋立処分場



大阪沖埋立処分場建設現場では、平成21年度の供用開始に向けて、建設工事を進めています。昨年12月に排水処理施設を設置し、8月には東護岸の鋼板セルの設置も終わり、新島の外形がほぼ出来上がりました。

引き続き、埋立棧橋・管理棟の設置工事や、廃棄物処分場の要である遮水矢板の打込み工事を行って供用開始に向け、着々と準備を進めてまいります。

[写真提供:大阪工業新聞社]



鋼板セルの設置工事の様子



排水処理施設を船で運ぶ様子

「大阪湾圏域における廃棄物・水環境保全に係る調査研究助成事業」成果発表会を開催

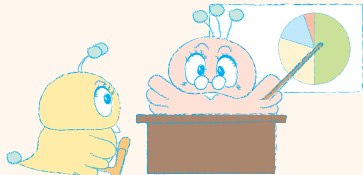
当センターの公益事業として、7月16日チサンホテル新大阪において、平成19年度よりスタートした「大阪湾圏域における廃棄物・水環境保全に係る調査研究助成事業」の成果発表会を、開催しました。発表会では、花嶋正孝 福岡大学名誉教授に基調講演をいただいた後、助成を受けた研究者9名から、それぞれの研究成果について発表いただき、会場では活発な意見・質疑が交わされました。

1	大阪湾圏域における難分解性溶存有機物の解明 兵庫県立健康環境科学研究所―水質環境部 仲川 直子
2	水面埋立地に敷設される遮水工の変形挙動評価に関する調査 NPO最終処分場技術システム研究協会技術向上グループ 宇佐見 貞彦
3	海面埋立廃棄物処分場酸化池における硝化活性阻害克服の検討 大阪市立環境科学研究所 西尾 孝之
4	尿素による焼却飛灰上でのダイオキシン類再合成抑制メカニズムの解明 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 高岡 昌輝
5	焼却灰、焼却飛灰、溶融飛灰におけるレア金属の賦存量と回収可能性に関する調査研究 立命館大学理工学部環境システム工学科 樋口 能士
6	自治体ごみ処理計画におけるごみ質調査データの活用事例に関する実態調査 大阪工業大学工学部環境工学科 福岡 雅子
7	埋立時の粗大・不燃ごみの破碎処理残渣からの汚濁物質溶出特性 明星大学理工学部環境システム学科 宮脇 健太郎
8	遺伝学的新規手法を用いた大阪湾底泥中における有毒・有害プランクトンの定量的調査ならびに異常増殖の可能性の検証 神戸大学内海域環境教育研究センター 田辺 祥子
9	大阪湾における水質汚濁のさらなる改善のための基礎検討 ―難分解性有機物の指標としてのCOD/TOC及び溶解性COD/DOCの挙動― 神戸市環境保健研究所環境化学部 八木 将博

(敬称略)



会場には一般公募を含め、聴講者が95名参加するなど盛況な発表会となりました。



泉大津フェニックスで野外コンサートを開催！



泉大津フェニックスで野外コンサート「AUGUSTA CAMP2008」が8月9日(土)、「RUSH BALL」が8月30日(土)・31日(日)、「OTODAMA」が9月7日(日)に開催されました。コンサート当日は、泉大津市など関係機関とともに設立した「泉大津フェニックスにぎわいづくり委員会」のブースを設けて、泉大津フェニックスのパネル展示や来場者を対象としたアンケート調査を行いました。今回のコンサートでは、約61,600人の来場者が会場を埋め尽くし、大きな盛り上がりを見せました。

この野外コンサートは、平成17年度から平成19年度まで総数約16万人の来場者を数え、年々夏のビッグイベントとして定着しています。



多数の方にアンケート調査にご協力いただきました。

今年度のイベント開催一覧

大阪湾フェニックスセンターは、近畿圏の府県や市などが開催するイベントやメッセに積極的に参加し、スライドショー、パネルや写真の展示、フェニックスクイズやアンケートを通して、広く一般の方々にフェニックス事業の紹介を行っています。

イベント名	主催者	開催日	開催場所
環境フェアinKUBE	兵庫県・神戸市	5月23日(金)～26日(月)	神戸市立中央体育館
天理市環境フォーラム2008	天理市	6月15日(日)	天理市文化センター
3R推進近畿ブロック大会	近畿地方環境事務所	9月20日(土)	奈良県広域地場産業振興センター
環境フェア～みんなでとめよう温暖化～	奈良県 他	9月20日(土)	奈良県広域地場産業振興センター
国際フロンティア産業メッセ2008	兵庫県・神戸市	10月8日(水)～9日(木)	神戸国際展示場2号館
エコアートフェスタ大阪	大阪市	10月25日(土)～11月3日(月)	天保山ハーバービレッジイベント広場
大阪湾フェニックス計画フォーラム	当センター	10月26日(日)	海遊館ホール
びわ湖環境ビジネスメッセ2008	滋賀県 他	11月5日(水)～7日(金)	滋賀県立長浜ドーム
ひょうごエコフェスティバル2008	兵庫県 他	11月9日(日)	淡路市立しづかホール
ニューアース2008	大阪国際見本市 他	11月26日(水)～28日(金)	インテックス大阪
京都環境フェスティバル2008	京都府 他	12月13日(土)～14日(日)	京都府総合見本市会館
堺泉北港40周年記念セミナー	大阪府	21年2月中旬	堺or泉大津市内

詳しくはセンターHPをご覧ください。

検索

フェニックス 掲示板



センター設立25周年記念『本上まなみさんデザインのバンダナ』を先着100名様にプレゼント!

ご希望の方は、ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、性別をご記入の上、大阪湾フェニックスセンター企画課までお送りください。
(宛先の住所は裏面参照)

【本上まなみさんからのひとこと】

バンダナが75cmと大きかったので、ちょっと苦労しましたが、地球の7割を占めている海に、たくさんの生き物が、わいわい元気に暮らしているんだろうと思いながら絵を描きました。



平成19年度決算概要

■損益計算書(平成18年度・19年度比較)

費 用 の 部			収 益 の 部		
	H19年度	H18年度		H19年度	H18年度
事業損益計算					
事業費用	23,776	23,938	事業収益	30,970	28,373
廃棄物処理費	8,979	9,657	廃棄物処理料	18,173	16,431
受託事業費	12,797	11,942	受託事業収益	12,797	11,942
一般管理費	2,000	2,339			
事業利益	7,194	4,435			
事業外・特別損益計算					
事業外費用	7,500	4,103	事業外収益	175	135
特別損失	0	21	特別利益	1,276	406
事業外・特別利益	△6,049	△3,583			
当期利益	1,145	852			

単位:百万円

※百万円単位での端数処理のため、合計値は必ずしも一致しません。

【増減要素】《費用の部》 事業外費用……維持管理積立金の先行積立等による33億97百万円の増。《収益の部》 廃棄物処理料……浚渫土砂、汚泥・鉱さい等の管理型産業廃棄物の搬入量増に伴う17億42百万円の収入増。



資源循環の地域モデル 「菜の花エコプロジェクト」の取り組み

東近江市あいとうエコプラザ菜の花館 館長
NPO法人愛のまちエコ倶楽部 事務局長

の むら まさ つく
野村 正次

琵琶湖の南東部に位置する東近江市は、1市6町（八日市市、五個荘町、永源寺町、愛東町、湖東町、能登川町、蒲生町）が合併して誕生した。菜の花エコプロジェクトは、愛東町から始まった地域発の資源循環運動であり、環境・エネルギー問題と農業・農村が抱えている問題を、地域から解決しようとする運動でもある。

琵琶湖に赤潮が発生して31年。琵琶湖の水を守るせっけん運動からその原料となる廃食油回収を始めて27年。回収した廃食油からバイオディーゼル燃料（BDF）への変換利用を始めて13年。そして菜の花の栽培が始まって11年目を迎えた。

この間、地球温暖化をはじめとする環境問題が国際的な最重要課題となり、化石燃料に替わるバイオ燃料が注目されるようになってきた。厄介物であった天ぷら油が、今や貴重な資源として取り合いの状況を呈しているとは、当時想像もできなかった現象である。

「自立した循環システムをつくる」

琵琶湖の水質保全の視点が再生可能エネルギー利用へと広がり、それが地域内資源循環の具体的なモデルとして菜種栽培へ拡大していった。農地に菜の花を栽培し、収穫した菜種を搾油して食用に使い、その廃食油を回収してBDFに精製し軽油代替燃料として利用する。循環型社会のあるべき姿を、身近に具体的に実践する「菜の花エコプロジェクト」の循環システムである。

農村の原風景である菜の花をシンボルにしたこのプロジェクトは共感を呼び、全国に広がっていく。平成13年度から毎年「全国菜の花サミット」が開かれ、平成16年度からは「全国菜の花学会・楽会」を開催するなど、着実に運動の輪が広がっている。

菜の花エコプロジェクトは、菜種の栽培からBDFの利用に至る循環過程で、さまざまな波及効果を地域にもたらしてきた。

菜種栽培は、転作田や耕作放棄田の活用につながり、農地がエネルギー生産の場になることを実証している。4月初旬から5月初旬の開花期には一面黄色に染まる美しい風景が生まれ、観光スポットとして



菜の花エコプロジェクト循環図

多くの人が訪れ、地域の経済効果も生み出している。

搾った油は安全な食料として特産品にもなり、搾油時に出る油粕は、上質の肥料として販売し農地に還元される。厄介物の廃食油が燃料になることで回収目標ができ、合併した市内全域での回収拡大に向けた市民活動につながっている。BDFはカーボンニュートラルの燃料として地球温暖化防止に貢献する。小学生から高齢者まで資源循環型社会を学ぶ環境学習教材としての効果も非常に大きい。

平成17年1月にオープンした「菜の花館」はプロジェクト推進拠点としての機能と共に、全国から年間250団体の視察研修を受け入れる情報発信の場となっている。

「菜の花を環境と地域再生のシンボルに」

農地が食料だけでなく、エネルギーを生み出し資源を生み出す。農業がエネルギー産業であり、資源作物生産業であるということは、農業振興に新たな期待を抱かせてくれる。安全な食とエネルギーの地産地消も夢物語ではない。

8月10日に当地で開催した全国菜の花学会・楽会にお招きした早稲田大学環境塾・塾頭の原剛氏は、菜の花プロジェクトには、地域に大きな工場を誘致して利益を得る「外來型発展」に対し、地域の持つ「地域力」や景観を守って暮らしの豊かさを大切にする



菜の花畑

「内発的発展」思考と、人間の精神的形成の空間である原風景を甦らせ、自己確認を試みる文化運動の側面があると話された。また、経済評論家の内橋克人氏は、著書『共生経済が始まる』（NHK出版）で、「『菜の花プロジェクト』は、持続可能な『生き続ける社会』をつくりだす世界に誇るべき『日本モデル』」と書かれている。

その地域モデルをしっかりと創っていくことが必要だと考えている。「菜の花プロジェクト」も、フェニックス計画のように、私たちにあってはならないものになりたいと願う。

編集後記

今年7月に開催された北海道洞爺湖サミットは、地球規模での気候変動、温室効果ガスの排出量抑制など地球環境問題が主要テーマとして議論され、世界の人々が改めて地球の温暖化問題について深刻に考える機運を高めました。

メディアでも連日「低炭素社会の実現をめざした地球環境に配慮した社会形成」や「エコ商品等環境にやさしい生活提案」などを取り上げ、私たち自身「日々の生活の中で環境のために自分ができること」について深く考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

当センターではこれまで大阪湾圏域の環境保全・創造の取り組みを行ってきましたが、号に掲載している今後のフェニックス事業に求められる方向性の中に「地球温暖化、生物多様性の保全等の地球環境問題への対応」「廃棄物処理を通じた地域社会の環境保全」が打ち出されたことから、今後、ますます環境に配慮した事業の実現に向け、皆様とともに考え、取り組んでいきたいと考えています。

ご意見やご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

（編集スタッフ一同）

i land fill vol.10

発行: **大阪湾広域臨海環境整備センター**
大阪湾フェニックスセンター

〒530-0005
大阪市北区中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階
※平成20年1月1日から、ビルの名称が「大阪中之島ビル」に変わりました。

T E L 06-6204-1721 (代)

F A X 06-6204-1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp

i Land fill は当センターホームページにも掲載しております。



2008.09